

– SDGsを考えよう/今、豊洲市場として取り組めることは？ –

## 水産資源や海洋環境に関するワークショップ 第4回「未利用魚の活用について」 ～新たなビジネスの可能性を求めて～

《主催》東京魚市場卸協同組合



近年よく耳にするようになった「SDGs」は、21世紀の世界が抱える課題を包括的に挙げて、すべての人が一丸となって達成すべき国際社会共通の目標です。その中には「水産資源」や「海洋環境」に関する課題が含まれており、水産物を取り扱う我々にとっても身近な問題です。

これらをテーマにしたワークショップ（勉強会）の第4回目につきまして、以下の通りご案内致します。参加ご希望の方はぜひお申込みください。

開催日時

令和3年11月26日(金) 13:10~15:10

※開催時間を変更しておりますのでご注意ください

概要

7街区管理施設棟 1F 講堂

水産物流通を巡る新たな環境変化の中、豊洲市場をはじめとした卸売市場流通も、取り組むべき課題が存在しています。流通コスト、流通システム等により卸売市場流通に乗れなくなった水産物「低利用魚・未利用魚」もその一つです。減少の一途を辿る沿岸水産物の供給や、卸売市場の取扱量を増やす方策の一つとして、数多くある未利用魚を集荷するための努力の必要性を考えていきます。

また、卸売市場での未利用魚の活用の可能性について、そのビジネスや取組の事例を紹介し、成功のポイントを探ります。さらに先駆的な取組事例として、横浜市中央卸売市場での取組もご紹介致します。

登壇者紹介



東京海洋大学学術研究院 海洋政策文化学部門教授・副学長 婁小波 氏

1992年3月京都大学大学院博士後期課程修了、農学博士。1997年4月に鹿児島大学水産学部助教授、1999年10月に東京水産大学助教授、2004年3月東京海洋大学学術研究院海洋政策文化学部門教授、現在に至る。

専門は海洋経済学、水産経済学、地域経済学。水産物流通や沿岸地域資源の利用と管理、沿岸地域の経済振興政策、海洋開発の社会影響評価手法の開発などについて研究中。

2019年に豊洲市場講堂において、講演を実施。



(公社)日本水産資源保護協会 調査役 田附りか 氏

日本航空(株)に10年間勤務ののち、(株)水産社に勤務。編集委員として「水産週報」の記事執筆と編集、「水産年鑑」「水産小六法」の編集を担当。時事通信に移籍し、時事水産情報、マスメディアへの出稿も行う。その後、全漁連に勤務し、広報担当及び季刊誌の執筆・編集担当として全国各地の漁協・漁村を取材。現在は、日本水産資源保護協会 勤務。水産加工・流通構造改善促進事業ほか協会の事業、季報の編集などを担当。

(東卸組合) 副理事長 山崎 康弘、常務理事 難波 昭信、(有)倉田商店 代表取締役 倉田 俊之 氏

(卸会社) 中央魚類(株) 代表取締役 伊藤 晴彦 氏

(市場関係) 横浜魚市場卸協同組合、OAFIC株式会社

(コーディネーター) 株式会社 轍 代表取締役 江口 慎一 氏 (東卸組合アドバイザー)

〔傍聴申込の締切〕

11月22日(月)まで

東卸組合 市場対策・事業保険課

TEL.03-6633-0166